

■設立 1973年3月 〒984-0015
 ■代表 小熊 清 仙台市若林区卸町2-9-5
 ■資本金 5,000万円 第二OCビル1・2F
 ■従業員数 113人 TEL/022-284-0289
 (男85人/女28人) FAX/022-284-2864
 http://www.sjc-sendai.co.jp/

採用ページはコチラから



マイナビ リクナビ

求人情報

■初任給 195,000円～
 ■福利厚生 社会保障完備、育児・介護休業制度、資格取得報奨金、親睦会補助、慶弔見舞金、退職金制度

■休日休暇 週休2日制(土・日曜)、有給休暇、慶弔休暇、特別休暇(祝日)、夏季・年末年始休暇

■職種 システムエンジニア、プログラマー、営業、ネットワークエンジニア、総合事務

■インターンシップ受け入れ/あり
 ■大学生アルバイト受け入れ/なし
 ■採用担当者連絡先
 TEL/022-284-0289
 E-mail/recruit@sjc-sendai.co.jp

- 1 社員の平均年齢はおよそ34歳。一人ひとりが同じ目標を共有しながら、それぞれの職務に情熱を注いでいる。
- 2 社内でのミーティング風景。密なコミュニケーションを欠かさず、チームで課題解決に取り組んでいる。
- 3 ソリューション事業部とシステム事業部がある2階フロア。PCに向き合う社員の真剣なまなざしが印象的。
- 4 オフィスは社歴や性別にかかわらず自然にコミュニケーションが生まれる雰囲気。チームワークの良さも普段の何気ない会話から生まれる。
- 5 1階のデータセンターでは、顧客から届くデータが滞りなく処理されているか逐次確認作業を行っている。
- 6 毎年恒例の「卸町ふれあい夏祭り」には、地元密着の一環として若手社員が神輿担ぎに参加。
- 7 出産・子育てを経て復帰した女性社員たち。女性が長く安心して働ける環境づくりにも努めている。



流通に特化したシステム作りで
 地域と社会に貢献する

09

今年で創業45年を迎える『株式会社SJC(旧株式会社仙台商工団地情報処理センター)』は、1973(昭和48)年、東北の流通拠点として多業種の企業が集う仙台卸商団地内に、地元企業の経営合理化のための共同計算センターとして設立された。2008(平成20)年に『株式会社SJC』へと社名変更。地域社会に密着し、流通に特化したシステム作りを経営

常に変化するビジネス環境に対応した付加価値の高いITサービスを提供している『株式会社SJC』。「安定性」や「やりがい」「地元密着」が同社の大きな魅力だ。

流通業に特化した情報処理サービスを提供

中核をなす3事業部
 その事業内容とは?

「ソリューション事業部」は、いわゆるエンドユーザー向けのソリューションサービスを

の基本としながらも、県内はもとより東北6県、さらにソフウェア開発、クラウドサービスにおいては全国までエリアを拡大し、今やあらゆる分野の事業を円滑に推進するために必要不可欠となった先進のITソリューションの提供に努めている。「その柱となっているのが、『ソリューション事業部』『システム事業部』『コミネット事業部』です。この3事業部を基盤に安定経営を行い、地域や社会貢献に努めています」と小熊清代表取締役社長は語る。



“SJCブランド”で社会貢献できる企業を目指す

展開する部門。顧客の基幹業務のシステム構築を通して業務効率化を支援するのが仕事だ。業務上の課題を聞き取り、最適なシステムイメージを提案・設計、さらに機器の導入からシステムの運用、保守に至るまで、一貫したワンストップサービスを行う。顧客は小売、卸売、製造、物流、農林水産など多岐にわたるが、中でも県内の漁協・魚市場の基幹システムは、その大半を、同社が開発した「ISARI」がカバーしている。まさに縁の下の力持ちとも言える部門である。

高い技術力を持つスタッフが日々、さまざまなソフトウェアの開発を行っているのが「システム事業部」だ。オリジナルのソフトウェアはもちろん、メーカー系ソフトウェアや大手ソフトウェア社からの依頼を受け、受託ソフトウェアの開発にも携わっている。また、大手ソフトウェア社のプロジェクトに参画し、プロジェクトメンバーの一員として大規模システムの設計・開発に関わることもある。

「コミネット事業部」が手がけているのは、データセンターを拠点に、インターネット社員同士が柔軟にコミュニケーションを取り合える職場環境も確立されていますよ」と小熊社長は話す。アットホームな雰囲気の中、各自で考えて前向きに仕事に取り組める社風が、社員のモチベーションアップにつながっている。

また、「ご家族の支えがあつてこそ社員、という思いから、金銭面での配慮も行っています。近年では社員のお子さんの入学祝い金制度を新設しました」。社内イベントには社員の家族の参加も歓迎している。福利厚生面も充実。社員旅行のほか、決起会や忘年会なども催されており、サークル活動も活発だ。産休・育休もしっかりと取得できるため、出産・育児を終えて復帰する女性社員も年々増えている。

情報サービスを通して地域や社会に貢献

長期的な安定経営を實踐し、よりいっそう地域や社会に貢献していくために、同社では長期経営計画となる「SJC10年ビジョン」を策定している。その大きなテーマは、現在3事業部で展開してい

ト経由で自社のデータやソフトウェアを提供するクラウドサービス事業だ。メーカー、卸売、小売店の商品の受発注サービスなども請け負っており、アウトソーシングによる業務の効率化と大切なデータの運用管理をサポート。膨大なデータを扱うため、迅速かつ正確なデータ運用が求められる部門でもある。

働きやすい生活基盤で社員と家族の幸せを

2015（平成27）年には、プロパー社員として初めて小熊氏が社長に就任したのを機に、経営理念を一新した。それが、「お客様との共栄」「パートナー企業との共存」「社員（家族）との共生」だ。特に目を引くのは、最後の「社員（家族）との共生」の項目。そこには、「社員自身が満足して初めてお客様やパートナー企業に満足していただけるものが提供できる」という小熊社長の信念が込められているという。

社員満足度を高めるため、業務においては社員の意欲や主体性を尊重。「目標を取り決めた上で、そこに向かうやり方は各自に任せています。中核事業を「より強く、より広く、より深く」していくこと。また、新市場や新規事業の開拓を通して新たな価値を創造していくことも盛り込まれている。そのためにかかせないのが、プロ集団の育成である。

求める人材について小熊社長は、「会社の雰囲気は合った人、自発的・能動的に動く人に来てほしいですね」と語る。システム関係の勉強をしてきた人が有利なのかと思いがちだが、「そんなことは全然ありませんよ。文系理系や男女も問いません。ただ、入社したからにはすぐ辞めてほしくはないですね。企業訪問は随時受け付けていますので、しっかりと自身の目で見て判断してください。自分がそこで働いているイメージが掴めたなら、きつと間違いないと思いますよ」とも教えてくれた。

高度情報化は今後ますます進展し、情報サービスも将来的にさらなる成長が見込まれる。杜の都・仙台で、次世代の高度情報化社会を担う仕事に携わってみたい、と考えている人はぜひ挑戦してみよう。



社員同士の親睦を図る年1回の社員旅行

年1回、社員旅行を実施しており、昨年は首里城などを巡る2泊3日の沖縄旅行に出かけた。函館、金沢、福岡など、その時々で話題性のある観光地への旅を通して、社員間の親睦を図っている。



年数回、自社の商品を展示会に出展

流通業界向けの情報システム総合展示会「リテールテックJAPAN」や国内最大の組込み総合技術展「ET」など、全国規模の展示会で自社のパッケージ商品をPR。活発に情報発信を行っている。



コミネット事業部 松崎あゆみさん 出身校：宮城学院女子大学

「プログラム未経験ながら理念に共感して入社し、1年がたちました。お客様からの『便利になったよ』という一言が励みになっています。もっともっと自分でプログラムできるようにになりたいです」



代表取締役社長 小熊 清さん

「お客様の求めるソリューションを構築することが私たちの主な仕事。企業の円滑な運営をサポートする“縁の下の力持ち”であることを喜びとし、新たな価値の創造に全力で取り組んでいます」



最新の情報はFBでチェックしよう

野球、フットサル、バレーボール、マラソンなど、社内のサークル活動も盛ん。経験は仕事にもフィードバックされ、活気ある職場づくりに役立っている。



社内外で3月から就職説明会を実施

外部での合同企業説明会や、学校に赴いての企業説明会、社内にて開催する個別説明会など、各種説明会を3月から順次実施。まずは採用ページを開いてエントリーすることから始めよう。



システム事業部 矢吹吉孝さん 出身校：会津大学

「この仕事の醍醐味は、今までにないものを0から形にし、世の中の役に立つことができる点だと思います。今後もチャレンジ精神を忘れずに、新しいことにどんどん取り組んでいきたいですね」



ソリューション事業部 島谷 智さん 出身校：東北工業大学

「充実感を覚えるのは、お客様に自分たちが作ったシステムを導入してもらい、目に見えて業務効率があっした時。これからは働きやすい職場環境づくりにも尽力していきたいと思っています」